

第102回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和5年2月10日（金） 13：00－15：00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

（1）委員

後藤委員長、常田委員長代理、遠藤委員、片岡委員、櫻井委員、篠原委員、白坂委員、松尾委員

（2）オブザーバー

森昌文内閣総理大臣補佐官、山川 JAXA 理事長

（3）事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局：河西局長、坂口審議官、滝澤参事官

（4）関係省庁

文部科学省研究開発局 千原局長

国土交通省大臣官房 加藤 技術総括審議官

防衛省防衛政策局 安藤局次長

4. 議事要旨

（1）令和5年度宇宙関係予算案等について

内閣府、文部科学省、国土交通省、防衛省から資料1－1～1－4に基づき、令和5年度宇宙関係予算案等に関する説明を行った。委員からは以下のような意見があった。

- 宇宙関係予算が大幅に増加したことは素晴らしい。他方で国土交通省と防衛省以外は大きく伸びていない。特に JAXA や人材育成の観点で文部科学省、ビジネスや産業育成の観点で経済産業省には頑張ってもらいたい。
- 更に予算を伸ばすためには各省がさらに宇宙を利用するよう、アンカーテナンシーの力を発揮して、衛星データ利活用の促進を図るべきではないか。
- 宇宙関係予算について、省庁別ではなく、我が国がどのような宇宙政策をしているのか種類別でわかるようにしてはどうか。また、技術開発についても小規模な予算で実施しているので目立たないが、把握できるように整理すると良いのではないか。

（2）次期宇宙基本計画の策定に向けた主な論点について

事務局から資料2及び資料3に基づき、次期宇宙基本計画の策定に向けた主な論点に関する説明を行った。委員からは以下のような意見があった。

- 衛星の国際展開にあたり、海外企業との共同生産やライセンス生産も考えられる。我が国の技術の強みも踏まえて、国際連携をどのように行うのか、議論を行うことが必要である。
- 既存の国際的な枠組みも重要ではあるが、アジアも競争が激しくなっていることから、スピード感を持ち現状に対応して、戦略的に取組むことが必要である。

- 地方公共団体に衛星データを利用してもらうためには、防災等を所管している担当省庁がガイドラインを策定するなど、地方公共団体を巻き込んでいく仕組みが大切ではないか。
- 宇宙基本計画には、学生や子供たちに夢や希望を与えるような記載ぶりが必要ではないか。

以上